

## 論文内容の要旨 (様式4)

報告番号	甲 第 9 号
論文名	身体を含む想像空間の方向検索に関する実験心理学的研究 Experimental psychological study of direction judgments in an imaginary space surrounding the body
氏 名	塚本 瑠奈
<p>本稿の第Ⅰ部では心理学における空間認知研究とイメージ研究アプローチによる先行研究を概観し、本稿の立場を述べた。本稿は想像空間に関する研究である。</p> <p>第Ⅱ部では想像空間異方性に関わる情報処理について、先行理論をレビューし、これまでの理論に含まれていないが関与する可能性のある要因について理論的な検討を行なった。</p> <p>第Ⅲ部では、Ⅱ部での議論に基づいて実験的検討を行なった。参加者は物語記述を読み、登場人物を含む情景場面をイメージして想像空間を作り、その中の人物にとっての6方向にある対象物を判断する方向判断課題を行い、反応時間が測定された。6方向に対する反応時間の相違から想像空間参照枠の異方性の内容が検討した。研究Ⅰでは探索的な実験Ⅰを行った。先行研究と同様、登場人物の正立や逆立ち、また各種の寝姿勢について各々方向判断を調べた。また新たに物語の人称記述(二人称・三人称)の操作も加えた。その結果、先行理論で説明できない、あるいは説明の試みがなかった側面があり、イメージ中の視覚的逆様効果、身体感覚イメージの関与、イメージ視点によっては共感性の関与を検討すべきと結論した。そこで、研究Ⅱの実験Ⅱでは登場人物を他者としてイメージするアウトサイド視点、実験Ⅲでは参加者自身が登場人物になったかのようにイメージするインサイド視点を教示し、視覚的逆様効果と登場人物の身体的負荷を独立に操作できる実験計画を工夫した。また身体負荷の物語記述と共感性の関係について個人差分析も行なわれた。アウトサイド視点では視覚的逆様効果と身体負荷記述効果(身体感覚イメージ)の両方が見出され共感性の関与も見られた。他方インサイド視点ではこれがなく、この視点では身体感覚がいつもイメージされるとする先行理論により、負荷記述効果がないと解釈できる。この負荷記述効果は他者としての人物が特殊な姿勢をとったとき、各種の筋緊張の様子までイメージされるのか、重量物を持つような場合でも起こるのかを、研究Ⅲ(実験Ⅳ)において検討した。その結果、特殊な姿勢に内在する緊張等の効果だと結論した。</p> <p>第Ⅳ部は、物語の人称記述、イメージ視点、身体感覚イメージそして共感性について総括し、また認知症における空間認知能力障害の問題への応用可能性を議論した。</p>	